

乳幼児健診におけるアンケート併用の効果

その3. アンケート記入状況からの信頼性

伊藤 玲子* 石塚 志津子* 足立 冬子*

秋田県環境保健部公衆衛生課 秋田県小児保健会

I はじめに

秋田県では、小児保健会医師グループの協力を得て、昭和47年6月から乳幼児健診アンケート併用¹⁾を行なっているが、今回は、昭和47～50年までの調査全数を加えた成績と、さらにハイリスク新生児の乳児健診アンケート記入状況等をもとに、母親の記入状況からその信頼性を検討してみた。

II 母親(家族)のアンケート用紙記入の実態から

A. 対象, 方法

昭和47年6月～50年12月までの郵送法で案内している乳児健診にあわせて行なった3カ月児53市町村, 13,857名, 12カ月児38市町村, 5,187名である。この市町村を、⁴⁾農林省経済地区帯区分に従い、秋田市(A), 平地農村(B), 農山村Cに分け(表1.), 記入者, 子どもへの問題意識, 記入態度を検討した。

表1. アンケート調査対象 (昭47. 6～50.12)

事 項 経済地区 帯別	市町村数	3カ 月					計	市町村数	12カ 月					計
		調 査 数				調 査 数								
		47 年	48 年	49 年	50 年	47 年			48 年	49 年	50 年			
A, 秋 田 市	1	1,870	1,739	996	2,842	7,447	1		1,253	1,445	1,557	4,255		
B, 平地農村	25	523	617	1,467	1,999	4,606	16	84	90	220	119	513		
C, 農 山 村	27	380	292	496	636	1,804	21	149	34	122	114	419		
計	53	2,773	2,648	2,959	5,477	13,857	38	233	1,377	1,787	1,790	5,187		

※47年のみ湯沢市がBとCに分かれるが、市町村数としてはBに入れてある。

B. 調査結果

1. アンケート用紙の記入者

表2.の如く、82.9%が母親であり、父は5.1%で、月令別地区別に大差がない。記入なしが10.3%である。
(以下記入者を母親で代表)

表2. アンケートの記入者 (昭47. 6～50.12)

経済地区帯別	月令 調査数	3カ月			12カ月			計		
		13,624名			5,141名			18,765名		
		母	父	記載なし	母	父	記載なし	母	父	記載なし
A秋田市		81.7%	5.3%	10.8%	88.4%	3.9%	7.3%	84.2%	4.8%	9.5%
B平地農村		83.5%	4.2%	9.8%	75.2%	4.0%	17.2%	82.7%	4.1%	10.6%
C農山村		75.4%	8.9%	14.2%	77.4%	7.3%	14.2%	75.8%	8.7%	14.2%
計		81.6%	5.4%	10.9%	86.3%	4.2%	8.8%	82.9%	5.1%	10.3%

※12カ月のA(秋田市)は、48年から収集

2. 母親の子どもへの問題意識と医師の診断

図1., 表3.は、3カ月児11,084名についてのその状況

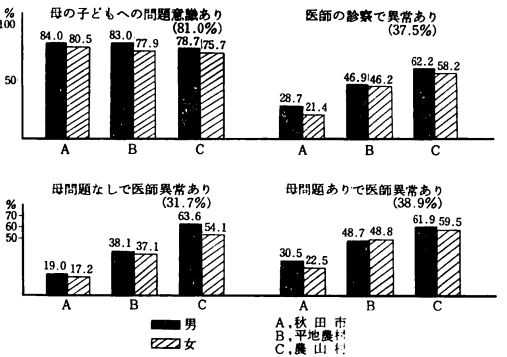


図1. 母親の問題意識と医師の診断の有無 (3カ月11,084名 昭48—50年)

*秋田県衛生科学研究所

表3.

経済地区別、母の回答に対する医師の診断

3カ月児 11,084名(昭.48～50年)

() %

地区 性 母 の回答 事項	A, 秋 田 市 5,577名				B, 平地農村 4,083名				C, 農 山 村 1,424名				合 計			
	男		女		男		女		男		女					
	2,863名		2,714名		2,098名		1,985名		723名		701名					
	異常あり	異常なし	異常あり	異常なし	異常あり	異常なし	異常あり	異常なし	異常あり	異常なし	異常あり	異常なし	異常あり	異常なし		
回答数	2,404	459	2,186	528	1,741	357	1,546	439	569	154	531	170	8,977	2,107	11,084	
医師の診断	異常あり	734 (30.5)	87 (19.0)	491 (22.5)	91 (17.2)	847 (48.7)	136 (38.1)	754 (48.8)	163 (37.1)	352 (61.9)	98 (63.6)	316 (59.5)	92 (54.1)	3,494 (38.9)	667 (31.7)	4,161 (37.5)
	異常なし	1,670 (69.5)	372 (81.0)	1,695 (77.5)	437 (82.8)	894 (51.3)	221 (61.9)	792 (51.2)	276 (62.9)	217 (38.1)	56 (36.4)	215 (40.5)	78 (45.9)	5,483 (61.1)	1,440 (68.3)	6,923 (62.5)

をみたもので、母親が子どもに対し、約80%が何らかの問題意識を持っており、A、B、Cにおいて地域差はほとんどみられない。

医師の診断結果からみると、何らかの異常ありが37.5%で、AがB、Cに比し有意に少ない。

母の問題なしの群と、問題ありの群において、それぞれ、医師異常のありをみると、図1.の如くで、何れの群においても、医師の異常ありは、Aに少なく、B、Cに

有意に多い。

3. 母親の記入態度

a. 行動発達の問題に対する「わからない」の解答状況

3カ月13,857名の行動発達に対し、5項目、12カ月3,006名のそれに対し8項目のうち、「わからない」の答についてみると表4.の如く3カ月で13.7%、12カ月で10.4%で年度別の差はみられない。地区別には、例えば3カ

表4.

行動発達「わからない」の比率

() %

3カ月					12カ月			
年 度	47・48	49	50	計	年 度	49	50	計
調査数	5,421	2,959	5,477	13,857	調査数	1,238	1,768	3,006
アンケート項目					アンケート項目			
発育は順調でしたか	132 (2.4)	79 (2.7)	122 (2.2)	333 (2.4)	発育は順調でしたか	19 (1.5)	34 (1.9)	53 (1.8)
音のする方にすぐ向きますか	146 (2.7)	82 (2.8)	221 (4.0)	449 (3.2)	「ママ」「ダダ」などのことばを話しますか(喃語)	20 (1.6)	22 (1.2)	42 (1.4)
あやすと笑いますか	9 (0.2)	4 (0.1)	7 (0.1)	20 (0.1)	見知らない人で泣き、顔なじみで泣きやむ	11 (0.9)	15 (0.8)	26 (0.9)
まわりのものをよく見つめますか	54 (1.0)	17 (0.6)	47 (0.9)	118 (0.9)	おとなに相手をしてもらいたがる	14 (1.1)	18 (1.0)	32 (1.1)
首はしっかりすわりましたか	386 (7.1)	215 (7.3)	382 (7.0)	983 (7.1)	部屋からなついた人が出て行くとき後を追う	6 (0.5)	5 (0.3)	11 (0.4)
計	727 (13.4)	397 (13.4)	779 (14.2)	1,903 (13.7)	つたい歩きができる	2 (0.2)	1 (0.1)	3 (0.1)
					音楽にあわせ体を動かす	62 (5.0)	69 (3.9)	131 (4.4)
					「バイバイ」と手をふって他人のまねをしますか	5 (0.4)	9 (0.5)	14 (0.5)
					計	139 (11.2)	173 (9.8)	312 (10.4)

月の「首すわり」について、A7.8%、B6.6%、C5.3%が「わからない」と答えており、12カ月では、発育の評価、子どもの要求態度の観察について「わからない」が多い。

3、12カ月何れも、全体として、A地区のわからないの比率が、B、Cに比し多い傾向にあるが有意差はみられない。むしろ、日常の診察場面の母親の態度としては、農村地区の方にあいまいな者が多い傾向が感じられ

る。

b. 先天異常と母の記入状況

表5.は、3カ月11,084名、12カ月4,954名の健診時点で、先天異常の診断ならびに疑診の得られたもののアンケートとの関係を見たものである。この中で、母親のチェックが情報として医師の診断に有効なものは、3カ月で814名中136名(16.7%)、12カ月で139名中36名(25.9%)で、既往、現病歴記載を入れても、3カ月で38.1%

表5. 3 カ月, 12カ月健診で先天異常がチェックされたもののアンケートとの関係 () %
48, 49, 50年

事 項		3 カ 月 (11,084名)				12 カ 月 (4,954名)				合 計
		年				年				
		地区				地区				
		調 査 数				調 査 数				
		異 常 数				異 常 数				
		A 秋田市	B 平地農村	C 農山村	計	A 秋田市	B 平地農村	C 農山村	計	
既往，現病記載あり		5,577 (6.2)	4,083 (8.2)	1,424 (9.7)	11,084 (7.3)	4,255 (2.9)	429 (2.3)	270 (2.6)	4,954 (2.8)	16,038 (5.9)
医 診 断 か ら	母のチェック情報有効	343 (18.1)	333 (16.2)	138 (14.5)	814 (16.7)	122 (26.2)	10 (30.0)	7 (14.3)	139 (25.9)	953 (18.0)
	母のチェックなし	106 (30.9)	50 (15.0)	18 (13.0)	174 (21.4)	42 (34.4)	2 (20.0)	2 (28.6)	46 (33.1)	220 (23.1)
		62 (18.1)	54 (16.2)	20 (14.5)	136 (16.7)	32 (26.2)	3 (30.0)	1 (14.3)	36 (25.9)	172 (18.0)
		175 (51.0)	229 (68.8)	100 (72.5)	504 (61.9)	48 (39.3)	5 (50.0)	4 (57.1)	57 (41.0)	561 (58.9)

12カ月で59.0%である。

表6. ハイリスク新生児の乳児健診アンケートに対する記入状況 昭47～51年 123名 () %

Ⅲ ハイリスク新生児の健診時アンケート記入状況から

A. 対象, 調査方法

昭和47年1月～51年6月までの秋田大学医学部附属病院産婦人科で出産した、ハイリスク新生児に対し、毎年1回呼出し健診による追跡を行なっている。健診は、一般の乳幼児健診と同様に、案内状にアンケート用紙を同封し、診察の補助として用いている。

51年8月まで健診をうけ、アンケート用紙の揃っている者 123名について、その新生児期の情報（既往歴またはその他の項目として）の記入について調査した。健診時の児の年齢は2カ月19日～3才4カ月である。

B. 調査結果

表6.にみる如く、新生児期の診断について母親が記入しており、現在も引き続き、同じ異常をもっている者6名(4.9%)、現在は治癒しているが、既往歴に書かれている者12名(9.8%)で、その情報が何らかの形で記入されている者が123名中18名(14.6%)である。そのうち14名が初回の健診時に書いており、他は2回目3名、3回目1名となっている。

新生児期の情報の中でも、奇型、遺伝性疾患など、母親の心情に強く影響する疾患程詳細に記入されている。

また、新生児期の診断と関係なく、現在、何らかの異常があり23名(18.7%)であるが、そのうち母親の記入が情報として有効なものが19名(82.6%)である。さらに、健診時に一応、特記事項なし82名中、母親のアンケート記入の上から要観察の群としたものが21名(25.6%)である。

新生児期の診断	例数	新生児診断記入あり		新生児診断と関係なく	
		現診断同	現在治癒	現病23名中母の記入有効	現在O.B82名中母の記入から要観察
黄 疸	69		5	12	9
未熟・低体	21	1	3	4	6
仮 死	12		1	1	
メ レ ナ	4		2	1	1
奇 形	2	2			
感 染	4			1	1
心臓疾患	5	1	1		
早 産	3				3
梅 毒	1	1			
嘔 吐	1				1
遺伝性疾患	1	1			
計	123	6(4.9)	12(9.8)	19(82.6)	21(25.6)

Ⅳ ま と め

市町村の健診方法、内容等のアンバランスは勿論であり、母親のうけとめ方もまちまちで、アンケートへの評価も一様には論じられないが、これまでの調査を通じ、次のことが指摘される。

1. 母親の問題意識は、何れの地域でも多いが、医師の診断で所見のある者が秋田市に少なく、平地農村、農山村の順に多い。
2. 母親の記入態度として、行動発達の「わからない」

が、3カ月（5項目）で13.7%，12カ月（8項目）で10.4%であり、地区別には秋田市に多い傾向で、一般健診時の農山村の母親の態度とくいちがいがみられる。

3. アンケート用紙の上から、医師の先天異常診断の助けとなる情報は、3カ月児 814名中、16.7%～38.1%，12カ月児 139名中、25.9%～59.0%であった。

4. ハイリスク新生児の、乳児健診時アンケート記入状況から、新生児期の情報記入が得られた者は123名中18名（14.6%）である。

また、新生児期診断と無関係の健診時異常あり23名について、母の情報が有効なもの19名（82.6%）、特記事項なし82名中、母親のアンケートから要観察の群としたもの21名（25.6%）である。

以上のことより、アンケート用紙は健診に際し、問診の情報提供の補助として、有効と思われる。しかし、母親の正しい児の観察を通し記載されるよう、積極的な保健指導も必要で、このことにより、健診のアンケート併

用の効果が、さらに高められるものと思われる。

文 献

- 1) 伊藤玲子たち：アンケート方式の採用と、妊産婦、新生児、乳幼児健康相談票改訂，秋田県衛生科学研究所報，№16（1972）
- 2) 伊藤玲子たち：乳幼児健診におけるアンケート併用の効果 その1．母親のアンケート用紙記入の実態，母子保健医療システムに関する研究報告，昭49
- 3) 伊藤玲子たち：乳幼児健診におけるアンケート併用の効果 その2．アンケート用紙からみた先天異常，母子保健医療システムに関する研究報告，昭50
- 4) 秋田県農業統計要覧，秋田県農政課，昭45
- 5) 伊藤玲子たち：ハイリスク新生児の追跡と保健指導 その1．児の追跡と出産時の母の認識，母子保健医療システムに関する研究，昭49